

キャン ドウ

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2017年9月[第80号]



活動の方向性	ケニアでの活動の終了に向けて	永岡 宏昌
ナイロビ便り	8月の総選挙、そして大統領の再選挙	永岡 宏昌
活動報告	地域保健ボランティア(CHV)への子どもの保護研修 その他の追加研修の時間割	橋場 美奈
ひと	自己紹介—ナイロビ事務所経理補佐 インターンを終えて	高梨 由美 白石 直子
フォト・レポート	マラウイでの話し合いとレンガ事情	
事務局から		

写真は、マラウイ国/パロンベ県の市場の近くで撮影

ケニアでの活動の終了に向けて

代表理事 永岡 宏昌

1998年1月に旧ムインギ県で始めた当会のケニアでの活動は約20年になります。マシंगा県での事業が終了する2018年2月にケニアでの主な活動を終了する予定です。

マシंगा県では、旧ムインギ県—ムインギ東県、ミグワニ県—での経験をいかし、2013年10月に住民参加での教室建設・補修と地域の保健活動の活性化を目指して事業を開始しました。その際に県保健局が、当会の活動は住民参加を促す面で先進性があると評価して、地域保健ボランティア(CHV)育成の協働を申し出てくれました。これによりマシंगा県で多くのCHVを育成できる環境が整いました。一方、行政から小学校の活動では住民参加は難しいと予測されていました。教室補修の実績を重ねる中で、多くの小学校で保護者が参加して、学校運営能力を向上させ、補修も実現していけるようになりました。

現在、CHVに対して、エイズ、早期妊娠予防、子どもの保護、子どもの衛生・栄養と発達の追加研修を実施し、CHVが習得したことを住民に説明する学習会の開催に共に取り組んでいます。CHVが学習会を通して、保健リーダーとして住民から信頼され、自信を持って地域での保健活動に自立的に取り組んでもらうことを目指しています。

住民から選ばれるCHVの多くは小学校の保護者です。CHVを育成する準区で教室補修を行なう小学校を選定することにより、補修に参加する保護者がCHVでもあるという状況になります。健康に関する知識・技能・視点を高めたCHVである保護者が、補修を通して学校運営に参加、合意形成、課題解決能力なども高めることで、小学校での保健活動につながることを期待できます。

CHVが校長や保護者代表に提案して、保護者と子どもへの保健トークや具体的な活動を行なう、そのきっかけとなるよう、CHVへの栄養と乾燥野菜作りの研修を行ないます。保護者が乾燥野菜を作り、メイズ(白トウモロコシ)と豆を煮込むだけの学校給食に水で戻した野菜を加えることをCHVが学校に提案して、栄養面で改善された給食の実現を目指します。CHVと小学校との合意は、教室補修を実現した学校で形成しやすいものと推測していますが、ほかの小学校への波及効果が期待できます。また、手洗いの実践や、子どもの保護、早期妊娠予防などについて、保護者や子どもへのCHVによる学習会開催が自立的に展開することも期待しています。これらの実現を、20年にわたる当会の活動の終着点としたいと考えています。

ナイロビ便り

8月の総選挙、そして大統領の再選挙

永岡 宏昌

8月8日にケニアで、大統領・国会議員・地方首長・地方議員を選出する総選挙が行なわれました。大統領選挙について伝える前に、過去2回を振り返ってみます。2007年12月は、現職大統領キバキの再選の発表に対して、対立候補オディンガは、投票後の集計過程で「票が盗まれた」と主張。多くの国民が同調する状況で、いくつかの地域では深刻な暴力状態に陥りました。国際調停により、投票結果を問わず、首相職を創設して、キバキ大統領とオディンガ首相で権力を分有する形で落ち着きました。2013年3月は、現職の引退に伴って、ケニヤッタとオディンガとの対立となり、ケニヤッタが過半数を若干上回る得票で大統領に当選しました。この選挙では、情報通信技術(ICT)を導入した集計でプログラムのミスが見つかり、手作業による集計に切り替えて、結果が出るまでに時間を要し、緊張状態での発表でした。落選したオディンガは、「票が盗まれた」と最高裁判所に訴えましたが、認められませんでした。

今回の現職大統領ケニヤッタが再選をめざす選挙では、投票直前に選挙委員会のICT担当委員が惨殺される事件が発生。開票中、対立候補オディンガは「コンピュータが操作されている」「集計証書(34A、34B)*が

偽造されている」と批判しました。選挙管理委員会は、34A(投票所の集計証書)、34B(選挙区でまとめた集計証書)の画像をウェブサイトで公開しました。8月11日に、再選が発表されると、オディンガは「コンピュータが大統領を作った」と抗議し、最高裁判所に選挙結果に異議を申し立てました。関連した騒動の中、政府発表で10名、野党側では100名以上の死者が出たと報じられています。9月1日、最高裁は選挙を無効とし、再選挙の判決を下しました。34Aや34B証書が原本でなかったり、署名がなかったり、などの問題が70集計センターであったこと、そもそも34Aを確認せずに34Bの集計のみで選挙結果を発表したことが、憲法ならびに関連法令に違反するとなりました。

オディンガは、一部選挙委員の罷免など再選挙への参加条件を出して、駆け引きが続けられています。選挙委員会は、再選挙日を10月17日と一旦発表し、更に26日に変更しました。再選挙を平和裏に実施し、集計証書を公開して、歴史に残る透明性の高い公正な選挙となることを願ってやみません。

*34Aは全国40,833投票所で候補ごとの得票数や無効票数をまとめ、各候補の代理人が確認署名した証書。34Bは全国290集計センター—下院国会議員選挙区—と1海外投票分で34Aを集計した証書。最終の全国の集計証書が34C。

活動報告 地域保健ボランティア(CHV)への子どもの保護研修

調整員 橋場 美奈

マシंगा県における当会の地域保健事業として、最初にマシंगा区で形成した地域保健単位(CHU)であるムクスCHUで、地域保健ボランティア(CHV)の声からこの研修は始まった。

2016年4月、月例報告会で「子どもの権利や子どもの保護に関する研修が必要なので、ぜひ行なってほしい」という発言があった。CHUによるエイズ学習会を参与観察するために、同CHUの村を訪れた際、地域で見聞きされている子どもの虐待について、CHVたちが真剣に議論している様子が見られた。地域内での深刻な課題としての認識があつて、研修を要望したことが分かった。

それまでのCHV育成研修と追加のエイズ研修は、当会の保健専門家、そして県保健局の公衆衛生官と地域保健普及員(CHEW)が講師を務めていた。「子どもの権利」に関する研修では、保護を要する児童のさまざまな課題への対応を担う児童官と協働で実施することになった。今年2月に、要望が上がったムクスCHUから2日間の研修が開始された。

子どもの基本的権利、原則、そして、保護が必要な子どもの分類、子どもの虐待の種類、虐待の背景とその結果引き起こされる状況などについて、CHVは知識を得る。またCHV自ら、地域の子どもの状況を伝え、講

師である児童官と当会の専門家、他の参加者と話し合う。研修において、積極的に事例を挙げ、問題視している姿勢を強く示すCHUと、地域内の問題をはっきりと提示できないCHUがある。研修後になると、研修の場では話せなかったが、と言って、個別の事例についてどうしたらよいのか講師に相談するCHVの姿がどこのCHUでも見られた。

公に研修の場で話せない理由を考えてみた。例えば、子どもへの性的虐待の加害者側と関係がある人がCHVの近くにいた場合、自分が事例について報告したことが、どこかで明らかになってはほしくない、と思うようである。同じような理由で、虐待のケースが地域において問題視はされていても、なかなか警察や児童官事務所への報告が進まないようである。

研修では、地域住民が虐待だとは思っていないようなことも、実は虐待に当たる場合があるという点についても教えている。例えば、子どもへの罰として、食事など基本的ニーズを制約することや、自由を完全に奪い、長期間にわたり閉じ込める罰などがある。

研修を修了したCHVに、子どもの保護学習会の開催を促している。それによって、他の地域住民へ知識が伝達されている。地域住民も子どもの虐待について関心が高く、学習会に積極的に参加しているようである。

活動報告 CHVへのその他の追加研修の時間割

■エイズ研修

2015年から実施(ムインギ東県、ミグワニ県では2日間のエイズ・リーダー研修)。

◇1日目

- ・理科的知識
- 新しい感染症／免疫システム／免疫システムへのHIVの作用
- 感染経路／予防／HIVエイズの段階
- HIVの増殖を遅らせる方法／子どもの感染リスク

◇2日目

- ・1日目の復習
- ・エイズの社会的側面の理解を深めるための議論

・グループでの議論と発表

・教授法

◇3日目

- ・2日目の復習
- ・教授法
- ・グループでの議論と発表
- ・今後に向けて

■早期妊娠予防研修

2017年3月に開始。小学校で実施してきた早期性交渉予防の取り組み—教員、保護者への研修と子どもへの保健トーク—をCHVへの研修に展開しました。

◇1日目

- ・子どもと両親に必要な知識
- 性と生殖に関する健康(リプロダクティブ・ヘルス)と社会面
- HIVエイズ、性感染症、早期妊娠と性交渉に関する理科的知識
- ・状況分析
- 学校地域社会の状況
- 早期性交渉の危険性がある状況と問題
- 子どもの早期性交渉を防ぐ大切さ
- CHVの役割

◇2日目

- ・1日目の復習
- ・グループでの議論と発表

■衛生・栄養・子どもの発達研修

2017年8月に開始。

◇1日目

- ・衛生(hygiene): 個人／食物
- ・水: 得る方法／扱い方
- ・衛生(sanitation)
- ・栄養: バランスのとれた食事／栄養不良

◇2日目

- ・1日目の復習
- ・子どもの発達: 子どもの発達とは何か／成長・発達・学習に影響を及ぼす要因
- ・地域の人たちへの教え方: 健康の問題の取り上げ方／学習会の開催準備として、グループと発表

ひと 自己紹介

ナイロビ事務所経理補佐

高梨 由美

今年度2月から CanDo ナイロビ事務所
経理補佐として働かせていただいています。
もともと、アフリカや途上国にまったく関心が
なく、一生関わりがないと思っていましたが、
個人的な事情でケニアにやって来て、今年5
年目になります。

約20年、ケニアで地域開発協力の活動を
されている CanDo の最後の年、集大成の年
に関わらせていただき、週例会議などで活
動内容を勉強することができ、早期妊娠予防、
子どもの保護、衛生、栄養、学校施設拡充、

環境等、既成ではなく本当に草の根活動で
深く地域住民と関わり苦労されている様子
を通し、アフリカでの地域開発協力というもの
を生で垣間見させていただく貴重な機会をい
ただいております。

一生来るはずもなかったアフリカで CanDo
に関わらせていただいたことで、また私のア
フリカに対する認識が広がったと思います。
ケニアの活動の最後の年度、貴重な最後の
集大成を経理の立場から微力ながら関わら
せていただきたいと思います。

ひと インターンを終えて

CanDo での約4か月間は人生で最大の苦難

白石 直子

2017年4月から8月末まで、保健チーム
のインターンとして CanDo の活動に参加さ
せてもらった。そこで学んだことは、人を動か
すことの難しさ、丁寧なコミュニケーションの
重要さだった。初めは、伝えるべきことがしっ
かりと伝わらず、さまざまな問題が起きた。
自分はこう言ったつもりでも、相手には全く伝
わっていないことも多かった。そんな時は自
分の出来なさに落ち込むこともあったが、ケ
ニア人スタッフや他のインターンに話を聞いて
もらい、なんとか自分を保っていた。社会

での経験の少ない私にとって、CanDo での
約4か月間は人生で最大の苦難だったよう
に感じる。しかし、多くのミスと失敗から学ん
だことはとても大きい。今後の人生において、
この経験は大きな糧となっていくことだろう。

ケニアから帰ってきて一番恋しいものとい
えば、やはりチャパティと砂糖たっぷり
のチャイだ。あの味は、どんな時どこでい
たいてもほっこりする、そんなケニアのソ
ールフードだ。またいつかあの味を味わう
日が来るように、今後の自分に期待したい。

フォト・レポート

マラウイでの話し合いとレンガ事情



3月30日、マラウイ共和国パロンベ県N区
で伝統首長の招集により、当会との話し合
いのための区の開発委員会会議を開催して
もらいました。地方議員、委員会メンバー、
集合村長、村長などが出席。当会が提示した
教室建設で、小学校の保護者が建設の職人
を雇用することは可能か、との質問に対して、
「できないだろう」との回答。



3月31日、KL区。伝統首長が招集して、当
会との話し合いのための集合村長会議。職
人雇用についての質問に、可能との答え。9
の集合村の訪問日程を決めました。



パロンベ県の多くの小学校でレンガが焼成さ
れ、キルンのまま置かれています。保護者
に話を聞くと、利用目的はない、とのこと。援
助する外部者への建設意欲のアピールのよ
うです。



県によれば、環境保全の点から、焼成レンガ
で教室を建設することは禁止している、との
こと。着目されているのが、砂と土とセメント
を混ぜて圧縮して形成するブリック。県にあ
る2台の機械を見学させていただきました。

事務局から

報告

◇人の動き

- 6月4日～7月16日、事務局長 佐久間 典子がケニアに出張。
- 6月14日、調整員 岩崎 敏実がケニアから一時帰国。7月12日、再派遣。
- 6月14日、大門 志織(だいもん しおり)をインターンとしてケニアに派遣。
- 7月2日、古田 幸花(ふるた さちか)をインターンとしてケニアに派遣。
- 7月19日～9月17日、代表理事(兼 事業責任者)永岡 宏昌がケニアに出張。
- 8月25日、インターン 白石 直子が研修期間を終了してケニアから帰国。
- 9月8日、インターン 岩崎 弘治が研修期間を終了してケニアから帰国。

お知らせ

■9月30日(土)・10月1日(日)

グローバルフェスタ JAPAN 2017 に出展

外務省、(独行)国際協力機構(JICA)、(特活)国際協力 NGO センター(JANIC)共催の国際協カイベントに今年も出展します。ケニアでの活動とマラウイの状況を紹介するパネルを展示し、サイザル製のバッグなどを販売。ゲーム「バオ」のコーナーを設けます。

・時間: 10:00～17:00

・会場: 東京・お台場センタープロムナード
(シンボルプロムナード公園内)

・最寄り駅: りんかい線・東京テレポート(1分)
／ゆりかもめ・お台場海浜公園(7分)、青海
(3分)

・ブースの位置: W098

・ウェブサイト: <http://gfjapan2017.jp/>

お詫び

■ CanDo 勉強会 2017・東京を10月に開催する準備していましたが、ケニアの状況で永岡の出張予定が変わったため、中止します。

■ 次号は12月に発行の予定です。

CanDo アフリカ [第80号]

2017年9月22日発行(10月16日改訂)

発行人:

永岡宏昌

編集人: 佐久間典子

発行:

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)
〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室

電話:

03-3822-1041

電子メール:

tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト:

<http://www.cando.or.jp/>

郵便振替:

口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会